

入選 低学年の部

お母さんいつもありがとう

三年生になった四月のはじめ、お母さんが

「のぶ君、よく食べるようになってきたので、このごろ体重がふえてきて太り気みだね。それに運動もにが手のようだし、運動不足にならないように、夕方、お母さんと歩こうか。お母さんもやせたいし、けんこうにいっついていわれるから歩こうと思うの。」と言いました。

ぼくは、サツカーもドッジボールも大好きです。ほんとうは友だちのようにサツカーやドッジボールが強くなりたいと思っています。

でも、マラソンの時なんかは、すぐに「ゼーゼー」してしまうし、太っているのとび箱やてっぽうはにが手です。

お母さんの話を聞いて、がんばって歩いてみようと思ったので、「やる」と約束してしまいました。

でも、実さいに毎日歩いてみるとつかれて大へんでやめたくなりました。お母さんは、まわりを見わたしたり、はな歌を歌ったりしながら楽しんで歩いています。「田植えがもう終わったわ。早いね。」とか、「つばめがとんでる。どこの家にするを作ったのかしら。」とか、「梅の実がたくさんなっているわ。家でも梅干作ろうね。」などと、いろいろなことに気付けて、教えてくれます。理科の時間に、お母さんと歩いてみつけたお天気のこと、虫や鳥、田んぼの様子や草花などがとても役に立ちました。とくに知らなかった道ばたの草花の名前がおほ

千葉県

富津市立湊小学校三年

佐藤 宜之

えられてよかったです。一時間ぐらい歩くので足が痛くなってきた、やめたいと思って、お母さんを見ると、首にまいたタオルで顔をふきながら「のぶ君、今年の夏休みはジャンププールに行こうね。泳げるようになるといいね。」と、すまして歩いているので、やめるといいたせませんでした。

七月に入って、じっとしていても汗が出るようになってきたので歩くのがめんどうくさく、つらくなってきました。

「明日から、夏の間は歩くの中止しようよ。」と言ったら、お母さんは、

「やめるのはかんたんよ。でも苦しいからつてやめてどうするの。この間のオリンピックで金メダルをとった人たちは、みんな苦しいのをがまんして練習してかちとったのよ。のぶ君、がんばろうよ。続けようよ。」と、話してがんばることを教えてくれました。

このごろなれてきたので、ぼくの方から、

「お母さん、早く出かけようよ、何ぐずぐずしているの。外で待っているよ。」と、言えるようになりました。これからは、お母さんが「やめようよ。」と、言ってもぼくはぜっ対にやめないで続けるつもりです。

お母さんは歩くだけではなく、パソコン、PTAの役員などいろいろなことにチャレンジしてすごいです。世界でただ一人のぼくのお母さん、大・大・大好きです。ありがとう。